

アメリカにおける ダウン症の人のための医療最前線 ～新しい出生前診断の登場をふまえて～

<講師>

ブライアン・スコトコー先生 医師

<日時>

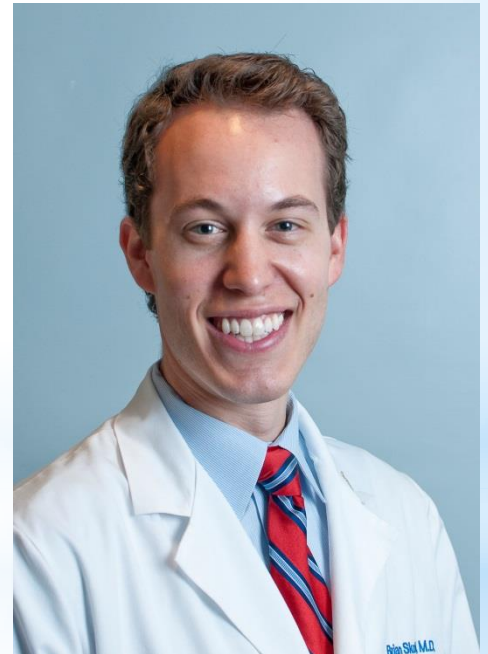
2014年6月28日（土）午後1時～3時
（受付開始12:40）

<場所> ※詳細は裏面参照

信州大学旭総合研究棟9A・B講義室

※参加費無料

※手話通訳・要約筆記あり



<講師プロフィール>

ブライアン・スコトコー先生は、アメリカ合衆国ボストンにあるマサチューセッツ総合病院のダウン症外来の責任者として活躍なさっています。スコトコー先生にはダウン症をもつ妹さんがおり、医師という立場だけでなく、家族という立場からも貴重な発言をされています。アメリカでも、そして日本でも、最近導入された新しいタイプの出生前診断が話題になっているなか、スコトコー先生は、ダウン症をもつ人々やその家族が、いかに心ゆたかに暮らしているのかを実証的な調査を通して明らかにするなど、ダウン症をはじめとして病気や障害についての適切な情報提供が大事であることをさまざまなメディアを通して訴えているひとりです。

<最寄のバス停>

信州大学前

JR松本駅前、アリオ1階松本バスターミナル1番のりばから“信大横田循環線”(または2番のりばから“横田信大循環線”)に乗車し、「信州大学前」で下車。所要時間は約15分(横田信大循環線の場合は約25分)。運賃200円。大学内に駐車場はありませんのでご注意ください。

